さくら

田中愛里

しわ一つないスーツを着て
ツルツルのパンプスを履く
外に出ると
空はねずみ色で
思わず笑ってしまう

風が吹いて
花びらが舞った
ひらひらと可憐に
きらきらと愛らしく。
音も立てずに地面に落ちた
薄紅色の頬が美しかった

自転車に乗ったおじさんがやってきて
無神経に花びらを轢いた
内臓が飛び出し、薄紅は泥にまみれた
地面にへばりつき、みっともなく笑った

わたしのスーツも
いつかはしわくちゃになって
ツルツルのパンプスも
踏まれて蹴られて
傷だらけになるのだろう